



さとのかぜ

No.169号

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

2009年10月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

指定管理者 千葉県環境財団

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>

e-mail senta-sato@isumi-sato.com

平成21年センターの米作り

当センターの里山の米作りは、

- ・田植をしてみよう (5/9)
- ・稲刈り体験をしよう (9/12)
- ・わらでおきもの細工をつくろう (11/1)
- ・もちつきをしよう (12/12)
- ・おかざりをつくろう (12/23)
- ・わらぞうりを作ろう (1/24)

の6段階に分け、「米の収穫」から「わら」の活用までを体験をする企画となっています。

4月は田んぼの耕起、畦切り、畔塗り作業を行い、5月の中旬に田植え体験によりコシヒカリ、月見もち(もち米)、京神(わら用)、アクネもち(古代米)の4種類の田植を行いました。

稲刈りは9月12日に行ないました。当日は朝から曇天模様の中、参加者は、東京、埼玉、近隣市町、いすみ市内の親子や夫婦など、幅広い地域年齢層が集まりました。

初めて参加する方、毎年参加する方がおりますが、職員やボランティアの人から、稲刈り鎌の扱いや刈り取った稲をわらで結束する方法の指導を受けた後、田んぼに入り一株一株手作業で一糸懸命に刈り取りました。

今回3ヶ所ある田んぼの内、1ヶ所はコンバインで刈り取りを行いました。刈り取りが終わると、おだかけ作業を行いました。

この作業に入った頃から、雨が降り始め作業は一旦中止。軒下に避難して、昔、使用していた「千歯扱き」「足踏回転脱穀機」による



もみの脱穀や唐箕(とうみ)による選別の実演を行いました。本来は稲が乾燥し終わった後に行う作業ですが、今回はデモンストレーションということで行いました。



参加者からは、何十年振りに稲刈りを行うことが出来た、稲刈を通じ子供と会話が出来た、親子で貴重な体験が出来た、とても楽しかった、古い農機具が体験出来た、来年も参加したい等々の意見が寄せられました。

その後刈り取られた稲は、「脱穀」、「乾燥」「籾すり」を行い、田植の参加者、稲刈りの参加者に新米としてお配りしました。

今年の収穫量は 428 キログラムで、昨年と比較すると 187 キログラム (30%) の減収となりました。職員一同ちょっとガックリの気分となりましたが、来年こそ……との思いです。減収の原因は、田植え後、比較的順調であった天候が、6月、7月には不順となり日照時間が少なかったためと思われます。

10月以降は、収穫したもち米を使って「もちつき」を、京神のわらを使った「おかざり

作り」や「ぞうり作り」、「置物細工」等の行事があります。多くの参加者が集まることを願っております。



畑の今後の作付 ～暮れから新春に向けて～

すっかり秋めいた昨今、センター内の畑では5月に定植したナス・トマト・ピーマン・シントウは多少の収穫はあるものの、終わりを告げています。

そんな中、次の作付（暮れから新春収穫）は何が良いかと、破紙（やれがみ）にメモをとりました。

その結果、キャベツ、ハクサイ、菜花、春の七草であるスズシロ（ダイコン）、スズナ（カブ）、ニンジン、シュンギク、カラシ菜の8種類の作付を計画しました。

これらのなかで、キャベツ・白菜は苗から、他は種から育てていく予定です。この地域では一般的には9月下旬～10月上旬が植え時・播種時であるため、キャベツやハクサイの植床（苗を植える場所）や、その他の作物の播種床（種まきの場所）の準備が少々遅れ気味かなと感じており、忙しい日々となっています。

ここで一つお目当てが……実は菜花ですが、収穫期（12月中旬ごろ）には、来館された方々と多少でも摘み取りができればと、頑張っています。

最近の畑の状況はつぎのとおりです。

《サツマイモ》



昨年は10月18日に芋掘りを行った結果、やや大きめのものが取れました。しかし、今年試し掘りをしてみたところ、昨年よりさらに大きく（太りすぎに）なっており、焼き芋を作るには時間がかかり少々不向きです。これは、前作がハクサイ・キャベツ、ネギでしたので、植床に肥料分がかなり残っていたためではないかと思われます。

《ダイズ》

枝豆の収穫を目当てにしていますが、初期生長の段階で、ノウサギ？に葉を食い尽くされてしまいました。その結果、結実しない状態のものが約95%くらいあり、残念な結果となりました。



《ソバ》

職員皆初めての経験で、四苦八苦しております。9月3日に播種して、20日現在は本葉5

枚程まで育ち、つぼみが見えてきたのでそろそろ開花するのではないかと、という状況まできました。今後の収穫を楽しみにしています。



ソバの栽培 ～ソバという植物・作物～

ソバは、タデ科のソバ属で、*Fagopyrum* という属名は、ギリシャ語の「phagein-食べる」に由来するという説や、種がブナに似ているので「*fagus*-ブナ」に由来するという説もあります。原産地は、東アジアの北部と言われていましたが、最近では中国雲南地方といわれています。ロシア、ウクライナ、カナダ、米国、ポーランド、日本などが主な生産国で、世界的には、麺にして食べるよりも、おかゆやパンケーキのようにして食べられているようです。日本では、北海道、長野、茨城の生産量が多いのですが、意外なことに8割が輸入で自給は2割。日本の食べ物自給率が気になります。センターでは1月の行事に、「ソバ打ち体験をしよう」が予定されています。

ソバは、やせ地でも育ち、乾燥にも強く、気候に対する適応の幅が広く、育てやすい作物だということです。さらに収穫までの期間が70から80日と短く、いすみ周辺でも休耕田に作付しているところがあります。

ソバは、ルチンやビタミンBを含む健康食品として、また、新芽野菜-スプラウトとしても人気があります。一方で、ソバアレルギーの方には怖い食べ物で、表示が義務付けられている食品になっています。そんな意味からか、最近ではそばがらの枕もあまり目にしなくなりました。

ソバは収穫時期によって「夏ソバ」「秋ソバ」と呼ばれています。夏ソバよりも秋ソバのほうが香りがよいと言われています。南の九州や暖地では、6月から11月まで収穫ができ、北海道では、8月から9月に収穫ができるよう

です。縦に長い日本列島のソバの収穫時期を追いかけていけば、長い間「新ソバ」を口にすることができるわけですね。

ソバは、自家不稔性で、虫や風の力を借りて他家受粉をする作物です。

ソバ由来の「ハチミツ」、聞いたことありませんね。蜂蜜の取れる植物--「蜜源植物」にもなっています。ちなみに、最近お茶でなじみのあるダッタンソバは、自家受粉OKで、実の



つきも良いのですが、味に苦みがあるそうです。またソバは、根の張りは浅く、茎は軟弱、倒れやすい植物です。霜に弱く、一度霜が来たらすぐに刈るのがよいと言われています。

センターでは、10月に白いソバ畑で花を楽しみ、11月初めに手刈りで収穫の予定です。その後の乾燥、脱穀、製粉と、一部はセンターにある千歯こき、唐箕、石臼など、昔の農機具を使って昔ながらのソバ粉作りをやってみようという予定です。皆さんも、ご一緒に体験しませんか。

菜の花の栽培

千葉県では、「菜の花エコプロジェクト」という、資源循環型社会づくりのモデル事業として推進している事業があります。菜の花、ひまわりなどの油糧作物の栽培を行い、お花畑に観光客を呼び込むだけでなく油を採取し、食用にした後も廃食油をディーゼル燃料として利用する、というものです。いすみでは、ここ数年、民間の畑を利用して活動しているボ



ランティアグループがあります。今年は、当センターの畑を利用した菜

の花栽培と搾油とをセンターも共同して行うことになりました。

9月15日に石灰の散布・すき込み、25日に元肥のすき込みを行いました。

今後、以下のように作業をする予定です。

- ・10月---畝立て、播種
- ・11月---草取り、間引き
- ・12月~2月---草取り
- ・3月---草取り、追肥
- ・4月、5月---鳥への対策
- ・6月---収穫、乾燥

来年の春になりますが、3月の黄色い菜の花畑をお楽しみに。さらに、6月の唐箕を使った風選・採油の行事への参加もお待ちしています。

ヒガンバナについて (ヒガンバナ属-ヒガンバナ *Lycoris radiata*)

稲刈りの後、9月のお彼岸の前後になるとヒガンバナが、赤く田んぼのまわりを彩っています。

日本の秋の農村の風景を感じさせる植物です。稲を乾燥させる「オダカケ」と一緒に見られると、ほっとした気分になります。



さて、ヒガンバナは、別名「マンジュシャゲ」とも「ハミズハナミズ」とも言われます。それぞれ、法華経に出てくる「赤い花」から、また花が咲くときに葉がないことから、だそうです。ヒガンバナが咲いていたところを覚えていて、ぜひ冬に観察してみてください。他の植物が枯れている中で、細い葉を放射状

に出して、栄養を蓄えていますよ。(冬緑型多年草)

生物学的には、遺伝子が3倍体(2n=33)のため、種ではなく鱗茎(りんけい)という部分が分裂して繁殖するという事です。(※鱗茎:茎の基部や走出茎の先に多肉化した多数の低出葉が短い茎を囲み、地下貯蔵器官となったもの。軸茎自体が肥大した塊茎や球茎とは異なる。岩波生物学辞典より)

大昔の縄文や弥生の頃に外国から渡来した植物らしいのです。ちなみにこのごろよく耳にする「外来種」は、明治以降日本に入ってきたものについて呼ぶという約束になっています。

中国には、遺伝子が2倍体(2n=22)のヒガンバナもあって、8月に花が咲き、種子によって繁殖するという事です

ヒガンバナが田んぼの周囲に多い訳は、飢饉のときの非常食とする植物であるという説があります。鱗茎には、アルカロイドなどの有毒物質を含むのですが、水にさらすことで毒を流し、良質の澱粉がとれるそうです。また、アルカロイドは毒性がありますが、うまく精製すると、咳の薬や鎮痛薬にもなるそうです。毒と薬を相合わせ持つ、面白い植物ですね。

いすみ市周辺の地質

いすみ市には崖がたくさんありますが、多くの崖の表面が縞模様になっています。このような崖は砂岩層（砂が固まってできた地層）と泥岩層（泥が固まってできた地層）によってできています。例えば、右の写真の黒い部分は砂岩層、白い部分は泥岩層です。

このような地層は、いすみ市と一宮町の境界から、いすみ市を南西方向に横切る形で分布しており、地層全体では最大でおよそ 540 mの厚さがあります。この地層の特徴をよく現している場所（模式地と言います）の地名をとって大田代層（おおただいそう）と呼ばれています。大田代層は砂岩層と泥岩層との繰り返しなので、それを遠くから見ると縞模様に見えるのです。また、様々な研究により、この地層は約 70 数万年～約 100 数万年くらい前の海底の扇状地堆積物と推定されています。



正断層

【乱堆積層】

乱堆積層は、海底にたまっていた地層が海底地すべり等によりちぎれて、ブロック状に再度たまったものです。下の写真のように黒い砂層が波打った様子が観察できます。



太田代層の崖（いすみ市万木）

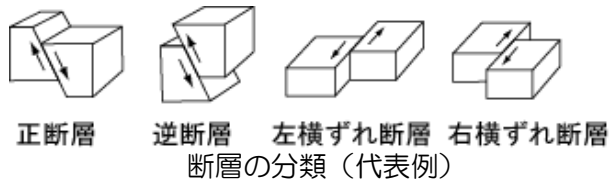


乱堆積層

いすみ市深谷のいすみ市文化とスポーツの森への上り口にも大田代層の崖がありますが、ここでは次のような地質現象を見ることができます。

【断層】

断層とは、地層が外力を受けて変形し、移動したもので、断層の種類は、地層の移動方向によって呼び名が変わります（下図参照）。



ここでは、正断層（せいだんそう、動いた方向は写真中の矢印方向）が見られます。

一方、大東漁港～大原の海岸には、ヒビがたくさん入った泥岩中心の地層が分布しています。この地層は黄和田層（きわだそう）と呼ばれており、大田代層と同様に、いすみ市を南西方向に横断する形で分布しています。

この地層は、君津市黄和田畑付近が模式地となっており、最大で約 670mの厚さがあります。大田代層より古い時代の地層で、100 数万～約 200 数万年くらい前に深海で堆積した地層であるとされています。

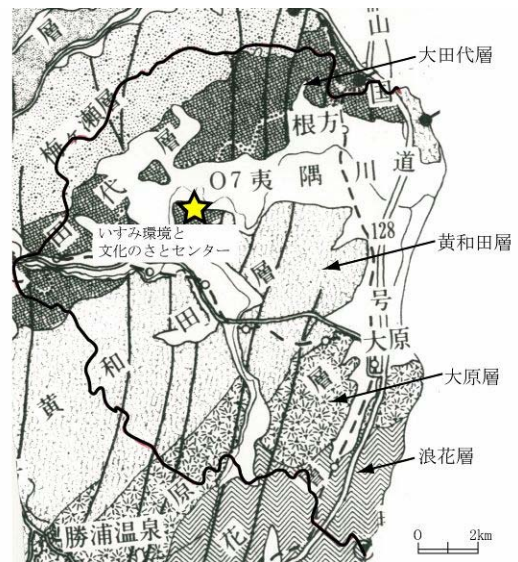
黄和田層は、以前「さとのかぜ 167・168 合併号」でも紹介した、山田地区の穴堰の周辺にも分布しています。



黄和田層の崖（大東漁港）

その他、いすみ市の南部には大原層（おおはらそう）や浪花層（なみはなそう）などの砂岩と泥岩からなる地層も分布しています。

今度、崖を眺めるとき、その地層ができた太古の昔を想像してみてください。



いすみ市の地質図

（近藤精造監修「日曜の地学 19 千葉の自然をたずねて」築地書館、の p175 の図に一部加筆）

行事の報告

7月のセンター行事

◇ハス観賞会 12 日

◆万木城までの自然観察と
里山ハイキング 19 日

◇センターの谷津の植物観察 25 日

◇ハス観賞会

大人 41 名、小人 8 名、計 49 名の方に参加していただきました。



観賞会当日は、オオガハスや瑞光蓮（ズイコウレン）、舞妃蓮（マイヒレン）といったハスが目立って咲いていました。参加自由の

イベントでしたので、皆さん自由に観賞したり、写真に収めたりと、ゆったりと満喫してくださいました。

◆万木城までの自然観察と里山ハイキング

直前のキャンセルも出てしまい、参加者は大人 2 名でした。

職員と参加者が挨拶をした後、センターの畑を通り抜け、まずは万木堰のトンボを観察しました。



コシアキトンボとオオヤマトンボの行動を観察したあと、いすみのマングローブこと、湿性生態園のヤナギ林へ。初めてここを訪れ

る方は、皆さん突然変わる景色に驚かれます。そして、木道を歩いている時にカワセミにも出会うことができました。

湿性生態園を抜けて、三光寺までの道は両側が草木が茂っているので、風が吹けばアスファルト舗装された道路でも、心地よい風が吹き抜けます。ここでは、ダイコンソウや、タマアジサイ、つる性の植物（サルトリイバラ、スイカズラ、ヤマイモ、ニガイモ、ヘクソカズラ）が観察できました。昆虫では、クロアゲハ、ハグロトンボ、アカタテハがヒラヒラと舞飛んでいました。

三光寺の弁天様で休憩してから、いよいよ山道へ。夏の草木の生長の早さで、道がすっかり塞がれてしまった所を掻き分けて、頂上の万木城展望台へ向かいます。その途中で、ハイハマボッサという植物群落の観察を行いました。

万木城展望台がある場所に向かうには、かなり急な階段を登らなければなりません。職員も含め、皆、足元をしっかりと確認しながら、息を荒げて登りました。

万木城展望台に到着して、まずはじめに遙か昔、まだここに城があった時代の痕跡を探しました。それは、城の米蔵の跡です。万木城の米蔵は、一度何らかの要因で炎上しています（何故焼けたか仔細は不明。諸説あるそうです）。そのため、米蔵のあった場所には、炭化した米が残されており、少し探すと炭化米を見つけることができます。

炭化米を探した後は、万木城展望台に登りました。展望台からは、青々とした若い稲が風に吹かれている気持の良い景色が見られました。



展望台を降りた後は、昼食休憩をとってまた山道へ。少々険しい道ですが、「山道歩きが楽しい」と、意外にも好評でした。最後に、海雄寺というお寺で、寝釈迦と呼ばれる涅槃（ねはん）像を特別に開放して頂き、見学させてもらいました。

イベントの感想として、

- ・ いろいろな植物に出会えた
- ・ 寝釈迦様をたっぷり観賞できた
- ・ 近場での山歩きを兼ねたハイキングはあまりないので、どんどん参加したい
- ・ 人通り、車道のない所、山の中を歩いたこと
- ・ 久しぶりに山という感じのところを歩いて良かった

といった答えをいただきました。

◇センター谷津の植物観察

大人2名、小人1名の、合計3名の方に参加していただきました。



まずセンターの田んぼへ行き、稲の観察。ここで「葉舌（ようぜつ）」という部分を、学習しました。葉舌とは、葉と茎の境目のような部分です。

続いて、ハス田に移動して、ハスの観察。ここでも、見るだけの観察だけではなく、実際に葉を手で触っての観察などを行いました。葉を触ると、一見同じように見える葉も、手触りが違うことで品種の違うことが分かるのです。ハス田を後にして、堰周辺や湿性生態園に向かう林道沿いの斜面を観察しました。杉林の話や、林床のシダ、草本をじっくり観察して歩いて、湿性生態園へ移動しました。

ここで一番始めに出迎えてくれるヤナギ林は、学習というより雰囲気を楽しむ時間とし

ました。湿性生態園には、一見するとよく似たイネ科のオギ、マコモ、ススキが生えています。この3種類を見分けるのには、一番始めに学習した葉舌を観察することでできます。皆で、ルーペ片手に3種類の葉舌を観察して、3種類を見分けることができるようになりました。

イベントの感想として、

- ・ 自然と触れ合い、いろいろなことを知ることができた
 - ・ 今までとは違った感覚で見ることができてとてもよかった
 - ・ 今まで知らなかった植物の特徴など知ることができ、見方が変わった
 - ・ 子どもにもいい経験ができた
- といった、答えをいただきました。

自然観察のイベントは、なるべく植物の名前の羅列にならないように、植物の育つ環境や、その植物を観察する時どこに注目するか、といったことを覚えて帰ってもらえるようなプログラム作りを心掛けています。

知らなかった植物の名前が分かるということも楽しい経験ですが、次に自分だけで何気なく植物を見た際、今までとは違ったポイントに目が行くようになるお手伝いができれば…と考えております。

8月のセンター行事

- ◆海辺の植物観察1日
- ◇チャレンジ!ワラ縄造り9、26日
- ◆トンボの沼のトンボを見に行こう22日

◆海辺の植物観察

大人5名、小人1名の計6名の方に参加していただきました。

センターへ集合した後、車に乗って観察地へ移動しました。まず、夷隅川河口の移り変わり、古夷隅湾、海岸線の後退についての解説を行いました。太東岬周辺は、海岸線の後退が激しく、明治16年に作られた地図と比べると大きく変わったことが分かります。そういった歴史の解説の後、海辺の植物観察に入りました。

海岸植物の特徴の解説を受けたあとに、実際に植物に触って確かめている参加者の方もいらっしゃいました。

◀ 海岸植物の特徴 ▶

- ・ 葉が肉厚
- ・ 葉に毛を持つものが多い
- ・ 上に伸びるより、横へ地面を這うものが多い
- ・ 地下茎を伸ばし、地中での生長を活発に行うものが多い



観察場所に多くあった、ハマヒルガオも葉が厚めで、草丈は低い典型的な海岸植物でした。ラセイタソウも見た目はふわふわ柔らかそうなのですが、実際触るととても硬いゴワゴワした葉でした。

観察場所の砂浜には、ウミガメ産卵地もあり、ウミガメの産卵についての解説も行ないました。



次に太東海浜植物群落へ移動し、スカシユリ群落の観察をしました。そして、最後に弁天島、雀島に移動して、海底地すべりの痕跡を示す地層の観察を行いました。

地層のお勉強もさることながら、眺めのいい景色に、気持ちが良くなりました。

最後に、いすみでなかなか見られない、ワダンという植物を観察して終了となりました。イベントの感想として、

- ・ 知らない植物の名前を教えてもらい、もっと植物について知りたいと思った
- ・ 時期をずらして見たいと思った
- ・ たくさんの植物の名前が覚えられた
- ・ 植物だけでなく、色々なお話を聞けて良かった

といった答えをいただきました。

◇チャレンジ！ワラ縄造り

参加人数は、2日間合計で約50人でした(出入り自由のイベントだったため)。

ワラ縄機を使うには、まずワラ打ちを行います。ワラ打ち機を中心のローラー部分にワラを差し込んで、ハンドルを回します。ワラが柔らかくなったら、ワラの準備は終了です。

まずはワラ縄機を使う前に、手でワラを縄ってみました。



初めての方には、説明を聞いても手が動かさなかったようです。それでもだんだん慣れてくるとただのワラが縄になり、感動しておられました。縄機を動かすのも楽しい体験ですが、自分の手のみで作上げたワラ縄はまた違った喜びがあるようです。

手で縄った後は、ワラ縄機を使ってのワラ縄です。こちらは、足で自転車のペダルのようなものを踏むことによって、機械が動きます。こちらも、見た目は簡単そうに見えるのに、足を動かしながらワラをつぎ足していくという同時作業が思った以上に難しい動

作でした。参加者の多くから、「楽しかった!」と言ってもらえたイベントとなりました。



◆トンボの沼のトンボを見に行こう

大人10名、小人11名の計21名の方に参加していただきました。

センターに集合してから、トンボの沼まで車で移動しました。トンボの沼には観察小屋があり、その中には沼で撮影された写真が数多く展示してあります。その写真を使ってトンボの種類や捕獲の仕方について学習しました。今はもう写真でしか見ることのできないトンボも多いという説明には、参加者の皆さんも残念そうでした。学習後は、トンボの沼の木道沿いに進み、トンボや植物観察を行いながら、捕虫網を使ってトンボを捕まえ、沼の周りを一周しました。また、途中で、職員によるトンボクイズを行いました。



トンボの生態や、名前の由来など、簡単なものからよく観察しなければ分からないものまで、トンボについて様々なクイズを出題しました。問題の一つに、トンボの飛び方はどれ? というジェスチャー付きのものがあり、必死

に職員が実演して出題しました。答えは、観察会のまとめの時に発表しますと伝えると、参加者の皆さんが一生懸命トンボを観察している姿が見られました。

沼を一周して観察小屋に戻り、まとめを行いました。ここではルーペを使って、トンボの体を細かく観察しました。トンボの目（複眼と単眼）と、腹の節の数についてのクイズも出題されていたので、その答えを実際に確認することができました。

そして、お約束のトンボの飛び方についての答え合わせを行いました。ここでは、参加者の小学生2人に手伝ってもらい、ジェスチャーを披露してもらいました。



上手にトンボの飛び方を真似してくれました！

《 今回観察できたトンボ 》

・アオイトトンボ・ギンヤンマ・シオカラトンボ・ショウジョウトンボ・ナツアカネ・ノシメトンボ・コシアキトンボ・チョウトンボ以上8種類でした。

イベントの感想として、

- ・ トンボの生態などがよくわかった。初めて見るトンボを見られた。クイズも良かった
- ・ トンボの沼の周りの散策は楽しかった
- ・ トンボのことはよく分からないから、少しわかるようになって楽しかった
- ・ 全て。トンボを触れた。クイズ
- ・ 身近にいるトンボですが、子どもたちが楽しく観察していた
- ・ また参加したい

といった答えがいただけました。

まさかのクイズ大好評に、職員も大喜びでした。

9月のセンター行事

◇米作り2・稲刈り体験をしよう 12日

◇米作り2・稲刈り体験をしよう

大人18名、小人6名の計24名の方に参加していただきました。

詳しい内容は、1ページ目にある「平成21年センターの米作り」の記事に載せてあります。



稲刈りの様子



オダカケの様子

ネイチャーコレクションの紹介



センターでは、「ネイチャーコレクション」と題して、石塑粘土（せきそねんど）でできた、様々な生き物のメダルに色を塗る体験ができます。

絵の具や筆など、必要なものはこちらで用意しています。大人も子供も、一日一人一つまで。無料で体験できます！

現在メダルは全 16 種類。写真は、今回新たに作ったカワセミのメダル。よく観察すると、水面に魚がはねています。

生き物の色や、背景の色のぬり方に決まりはありません。オリジナルカラーに塗ってみるのも楽しいかもしれません。現在は、クワガタとカブトムシのメダルも製作中！

今後も徐々に種類を増やしていく予定なのでお楽しみに。

これからの行事案内

11月

●米作り3・わらでおきもの細工をつくろう

1日(日)10:00～15:00 定員 20名

稲のわらには色々な使い道があります。今回は置物細工です。

参加対象:中学生以上

場 所:ネイチャーセンター

持 ち 物:工作バサミ、座布団、寒くない服装、弁当

●第13回 ■さとの文化祭■

17～23日(火曜日～月曜日)

自然を様々な形で表現した作品がセンターに飾られます。

場 所:ネイチャーセンター

作品応募:センターにお問合せ下さい

作品搬入:10月25日～11月3日まで

●晩秋のセンターで自然観察をしよう

28日(土)10:00～12:00 定員 20名

晩秋のセンターでは何が観察できるかな？

参加対象:小学4年生以上

場 所:ネイチャーセンター

持 ち 物:寒くない服装

12月

●つるでリース作り

5日(土)10:00～16:00 定員 20名

つるを使ってリース作りをします。山に入って自分でも取りに行きます！

参加対象:高校生以上

場 所:ネイチャーセンター

持 ち 物:鎌、剪定ばさみ、軍手、長靴、山に入れる寒く

ない服装、弁当

●米作り4・もちつきをしよう

12日(土)10:00～14:00 定員 40名雨天順延 13日
つきたてのお餅を味わって、お正月の丸餅を作りましょう。

参加対象:特になし

場 所:ネイチャーセンター デイキャンプ場

持ち物:タオル、寒くない服装

●米作り5・おかざりを作ろう

23日(水)9:00～12:00, 13:00～16:00の2回。

各定員 20名

今回はわらを使って、お正月のおかざりを作りましょう

参加対象:中学生以上

場 所:ネイチャーセンター

持 ち 物:材料費-実費(500円程度)、工作バサミ、座
布団、寒くない服装

1月

●そばうち体験をしよう

17日(日)10:00～14:00 定員 20名

そばを自分で打って、皆で味わいましょう。

参加対象:中学生以上

場所:つどいの家(集合はネイチャーセンター)

持ち物:材料費-実費(1000円程度)、割烹着、手ぬぐ
い、タオル、ボウル、寒くない服装

●米作り6・わらでぞうりを作ろう

24日(日)10:00～16:00 定員 20名

米作り体験最後の行事。

世界に一足しかない自分だけの草履を作りましょう。

参加対象:小学5年生以上

場所:ネイチャーセンター

持ち物:木バサミ、お弁当、座布団、寒くない服装

センターの生き物たち



ゲンショウコ／フウロウソウ科

下痢などした時に煎じて飲むと、症状がすぐ治まるので「現の証拠」という名前がついたそうです。

現在でも薬局で、整腸のお茶として売っているのを見かけますが、実際に咲いている現物を見たことある人は少ないのではないのでしょうか。また、種子散布の様子が大変特徴的で、果実が熟すと、さやが反り返り種子を投げ飛ばします。種子を飛ばした後の形がお神輿を連想させるので、ミコシグサとの異名もあるそうです。

センターでは、昆虫広場にて花と種子を飛ばした後の両方の様子が観察できます（9月17日現在）。

トビ／ワシタカ科

“トンビがくるりと輪を描いた”と歌われたように、センターでもトビが輪を描きながら飛ぶ様子が見られます。

ピーヒョロロロという特徴的な鳴き声で鳴きながら飛翔することも多いのですが、センターで観察できる時は大体黙って飛翔しています。

他の猛禽類（北海道のオジロワシなど）は生息数が減ったと言われていますが、トビだけは日本全国で見られるようです。他のワシタカ科に比べて雑食性が強く、市街地でも暮らしていける強さがその要因となっているのではないのでしょうか。



いすみ楊枝 —千葉県伝統工芸品—

センターでは、「いすみ楊枝」を県内外に広く紹介するため、毎月高木守人氏に実演をお願いしています。

日時 毎月第3日曜日(9:30~16:00)

場所 ネイチャーセンター

講師 高木守人 氏

参加料 無料

内容 楊枝・花入れ・茶杓作り など

編集後記

季刊として発行しているため、行事報告も膨らみ、今号は12ページとなりました。内容もいすみ市の地質やセンターの畑の話題、センターで観察できる動植物など多岐に及んでいますが、里山の文化の紹介があまりできなかったことが残念です。次号にむけて色々な原稿を考えています。

なお、指定管理者として半年、色々なご意見をいただき感謝しています。新型インフルエンザの発生の影響のためか来館者も減っていますが、「静かでいい所ですね」というご意見には複雑な思いです。

所長

行事への参加申し込み、お問い合わせは、電話(0470-86-5251)、ファックス(0470-86-5252)、または、直接センター事務室にお申し出下さい。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承下さい。

*eメール可(メールアドレス:senta-sato@isumi-sato.com(すべて半角小文字です))

*行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ず早めにセンターまでご連絡下さい。

◆ ◆ ◆ 利用案内 ◆ ◆ ◆

休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日~翌年1月3日

開館時間：9:00~16:30、入館料：無料

※当施設のご案内や解説などを希望される団体は、2週間前までにお申し込み下さい。